

多様な人とかかわる中で、自他のよさを認め合い、協調して学び、新たな自分を発見できる子どもの育成

学校通信 ひがしやま 第39号	発行日	令和6年8月28日(水)
	発行者	別府市立東山幼稚園 別府市立東山小学校 別府市立東山中学校 校(園)長 谷川 芳明

○「玖珠町立学びの多様化学校」等の訪問について。

「県立青少年の家」での宿泊体験学習や校外学習を行う学校に森林・林業教育の推進を支援する県教委の事業に応募、「当選」した小学5年生及び6年生が10月4日に「県立九重青少年の家」を利用します。打ち合わせとあわせて、九重町及び玖珠町の学校を訪問しました。

公立学校では九州初の不登校特例校である玖珠町立学びの多様化学校は、児童生徒数19名でスタート、職員数11名。学校教育目標は「みんなが主役の学校～みつける つながるひろげる～」(わたしたちは一人ひとりが「主役」として、安心して自分らしく過ごせる学校をめざします)。小原校長曰く「わたしたち」には教職員も含まれるとのこと。「子どもが主体」をテーマに、例えば各教室は子どもたちが命名(パラダイスルーム=教室、リラックルーム=音楽室、お花畑=トイレ等)。校歌は子どもたちで考える。学校名も一応「仮」だそうです。特別な教育課程の編成が可能で、「対話」「野遊び」「探究」など新たに盛り込んだと。小原校長曰く「今も走りながら考えている状況」「成果と同じくらいの課題も」とのこと。

梶原玖珠町教育長の思い、小原校長の思慮、教職員の熱意、保護者の願いが結実し、開校した学校。様々なお考え、ご意見があると思います。「安心して自分らしく過ごせる学校」はどうあるべきか、これからも議論が続きます。

またオンラインで遠隔交流ができないか模索しており、「経験値」のある九重町立野矢小学校(児童数24名 職員数11名)にて、情報交換を行いました。令和2年7月豪雨以降も大雨による被害を受けた学校で、校舎や体育館の床下に流れ込んだ汚泥の搬出口(1m四方)があらこちらにあります。たまたま職員に東山校区出身の方がいて、ご母堂が「学校通信ひがしやま」を楽しみにされており、ファイリングしていると教えてくれました。

★★

○市内のフリースクール訪問について。

今年度、別府市がフリースクール(以下、「FS」という。)利用の児童生徒の保護者を対象に、補助金支給を決定したこともあり、NPO法人「みんなの教室」(代表 高部春菜氏)及び「別府フリースクールうかりゆハウス」を訪問しました。「うかりゆハウス」代表志水健一氏には、7月27日開催された東京都世田谷区立桜丘中の元校長 西郷孝彦氏(校則、定期テスト、制服などを廃止)の講演会でもお目にかかりました。両代表ともに「(ここを経て)学校に戻ることにつながってくれば」と言われたことが印象的でした。

なお、今回訪問したFSについては、大分県教育委員会が作成した「令和6年度不登校児童生徒支援ガイド」(各校1部配布)を参考にしました。県教委のホームページにもアップされていますが、校長室に同課から、「直接」もらってきた冊子が数部あります。ご希望があればお渡します。作成当時は、FSや「不登校の親の会」等の「民間」と教育支援センター(野口ふれあいルームなど)等の「行政」が併記されていることが大変画期的なことでした。